

太平洋戦争が始まって

国全体が戦争一色

昭和16年12月8日、日本軍のハワイ真珠湾攻撃によって、太平洋戦争の火蓋が切って落とされた。開戦当初、日本軍はシンガポール、マニラなど東南アジア各地を占領した。

しかし、17年6月ミッドウェー海戦の敗北、18年2月ガダルカナル島からの撤退などにより、戦況はどんどん悪化していった。

昭和19年には、アメリカの大型長距離爆撃機B29による本土空襲が始まった。最初は、東京などの大都市が大きな被害を受けたが、次第に地方の中小都市にも及んでいった。

そのため、豊橋でも市民や家屋の疎開が開始された。それまで、戦争とはいっても、外地のできごとのように思っていた銃後の人々も、いよいよ空襲の恐怖におびえる毎日となった。

子どもたちは、学校で空襲時の避難訓練をし、国のために全国民は戦うべしとする教育を受けていた。子どもだけでなく、大人たちでさえ、国のために国民が力を合わせて戦うのだ、という軍国主義に染められていた。戦争を快く思わないような発言をすれば、非国民とさえ言われた。

中学生になると、男女を問わず、学徒動員として兵器を作る工場などで働くこととなり、中には豊川海軍工廠へ動員される生徒もあった。

そして、豊橋市は、昭和20年6月19日夜半から20日未明にかけて、B29、総数136機（米軍資料による）の焼夷弾攻撃を受け、市の中心部が、焼け野原になってしまった。

その後、8月6日、世界で初めて広島に原子爆弾、翌7日には、豊川海軍工廠爆撃、さらに9日長崎に原子爆弾が投下され、その6日後の15日、日本は終戦を迎えた。

太平洋戦争への道のり

明治17年	旧吉田城内に兵舎建設開始
19年	兵舎が完工し、聯隊本部と第一大隊の移動完了
27年	日清戦争が始まる
37年	日露戦争が始まる
大正3年	第一次世界大戦（～大正7年）
	ヨーロッパが主な戦場に
昭和12年	日中戦争始まる
昭和14年	第二次世界大戦開戦
昭和16年	太平洋戦争突入

豊橋空襲による被害

家屋の焼失	16,886戸
罹災人口	71,502人
死者	624人
重軽傷者	344人

『豊橋市戦災復興誌』より



焼け野原となった
空襲後の豊橋市街
伊藤 茂氏 撮影

暮らしが消えた

クイズめきますが、つぎの品目名がなにを意味しているか、あててください。(中略)

鉄瓶、やかん、花瓶、灰皿、銅壺、水差、柵、塀、塵取、屑籠、如露、卓上呼鈴、鉛筆削、名刺差、伝票差、洗面器、鉄製椅子、脚立、・・・・・・・・・・(以下略)

これは、昭和16年3月作成「第一次官庁公共団体資源特別回収実施要綱」の別表「回収鉄鋼製品及び銅製品例示表」のなかに列挙されていました。

血眼になって、金属類すべてを回収した時代。暮らしが消えていった日。まだなにが起きるか市民一般は知らずにいます。

「一九四五年の少女」本文より抜粋



一九四五年の少女
私の「昭和」
澤地久枝 著
文藝春秋 発行

暮らしの中で必需品と思われるものが、市民の日常生活から、どんどん取り上げられていった。

消えたものは金属だけじゃない ～すべてが配給制に～



戦争と子供たち
福岡県教組・編
働正・絵

米をはじめとする食糧全般、衣料品・布類、すべての生活用品が不足し、自由には手に入らなくなった。暮らしに必要な物がすべて配給制になっていき、そして、年とともに分量が減っていった。

お金があっても、役には立たない時代だった。母は、子どもたちに食べさせるために、農村へ出かけて行って、上等な着物を米や麦、芋などと交換した。

また、必死な努力の甲斐もなく、栄養失調のために、幼い命が絶たれてしまうことも多かった。

しかし、悲しいことに、弔うための棺さえ、なかなか手に入らなかった。



金属供出のようす
澤田久夫写真集より
樹林社 発行